令和元年第2回滝川市議会定例会（第12日目）

令和 元年 6月 7日（金）

午前 9時56分 開 議

午後 0時00分 閉 会

○議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員指名
- 日程第 2 令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する代表質問
- 日程第 3 令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する質問
- 日程第 4 議案第 1号 令和元年度滝川市一般会計補正予算（第1号）
議案第 2号 令和元年度滝川市介護保険特別会計補正予算（第1号）
議案第 7号 滝川市介護保険条例の一部を改正する条例
議案第 8号 滝川市民会館条例を廃止する条例
- 日程第 5 選挙第 1号 中空知衛生施設組合議会議員の選挙について
- 日程第 6 選挙第 2号 石狩川流域下水道組合議会議員の選挙について
- 日程第 7 選挙第 3号 空知教育センター組合議会議員の選挙について
- 日程第 8 議案第12号 議員の派遣について
- 日程第 9 報告第 3号 監査報告について
報告第 4号 例月現金出納検査報告について
- 日程第10 意見書案第1号 2020年地方財政の充実・強化を求める要望意見書
意見書案第2号 児童虐待防止対策のさらなる強化を求める要望意見書
意見書案第3号 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書
- 日程第11 常任委員会及び議会運営委員会閉会中継続調査等の申出について

○出席議員（16名）

1番	三 上 裕 久 君	2番	堀 重 雄 君
3番	木 下 八重子 君	4番	山 口 清 悦 君
5番	山 本 正 信 君	6番	渡 邊 龍 之 君
7番	関 藤 龍 也 君	8番	寄 谷 猛 男 君
9番	佐々木 和 代 君	10番	安 樂 良 幸 君
11番	本 間 保 昭 君	12番	田 村 勇 君
13番	柴 田 文 男 君	14番	荒 木 文 一 君
15番	水 口 典 一 君	16番	東 元 勝 己 君

○欠席議員（0名）

○説明員

市	長	前田康吉君	副市長	千田史朗君
教育	長	山崎猛君	監査委員	宮崎英彰君
会計	管理者	田湯宏昌君	総務部長	中島純一君
総務	部次長	柳圭史君	市民生活部長	浦川学央君
保健	福祉部長	国嶋隆雄君	産業振興部長	長瀬文敬君
建設	部長	山崎智弘君	市立病院事務部長	椿真人君
教育	部長	田中嘉樹君	教育部指導参事	廣瀬一仁君
監査	事務局長	杉原慶紀君	総務課長	深村栄司君
企画	課長	稲井健二君	財政課長	堀之内孝則君

○本会議事務従事者

事務局	長	竹谷和徳君	次	長	菊田健二君
書	記	村井理君	書	記	池田茂喜君

◎開議宣告

- 議 長 ただいまの出席議員数は、16名であります。
本日も市民の方々の傍聴、ありがとうございます。
これより本日の会議を開きます。

◎日程第1 会議録署名議員指名

- 議 長 日程第1、会議録署名議員指名を行います。
会議録署名議員は、議長において木下議員、山口議員を指名いたします。

◎日程第2 令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する代表質問

- 議 長 日程第2、昨日に引き続き令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する代表質問を行います。
なお、この場合3名の方の質問が既に終了しておりますので、プリントの順位4番目の方の質問に入ります。

質問の時間は再質問を含めて45分以内の持ち時間制となっておりますので、質問、答弁ともに要点を簡潔にするとともに、通告の範囲を遵守するようお願い申し上げます。

それでは、三上議員の発言を許します。三上議員。

- 三上議員 おはようございます。私は、公明党を代表し、前田市政3期目スタートとなる令和元年の市政執行方針に対し質問いたします。

◎1、市長の基本姿勢

1、市立病院の経営改善と行財政改革について

公明党は、住みなれた地域で子育て、医療、介護、生活支援などを充実させ、市民一人一人が可能性を最大限に発揮し、社会で活躍し、滝川の未来へ希望を持ち続けられるような共生社会の構築を目指してまいりたいと思っております。今市民の話題の中心は、滝川市立病院の赤字問題があります。市立病院で診てもらえなければ砂川市立病院まで行かなければならないのだろうか。そうなれば、診察を希望する人が集中して、待ち時間が長くなる、こういった不安を抱く市民の方がいらっしゃいます。そんなとき私は医者の方でも看護師さんほかのスタッフの皆さんもみんな頑張っているから大丈夫だよと話します。だから安心してください、そうは言ってみたものの、私自身不安がないわけではなく、市立病院の経営に関しその不安を払拭するため、本日冒頭で市長は市立病院の課題へ向けてどのような姿勢で臨まれるのか伺いたいと思います。

市長の3期目の最重要課題に地域医療の確保があります。そのことに全力で取り組んでまいりますということです。これまで市立病院は、平成23年の病院改築以降平成24年度から平成26年度、平成27年度から平成29年度まで市立病院中期計画を策定し、改善に努めてまいりました。

そして、平成28年度からは5カ年の病院計画を立て、現在も進めております。確かに平成30年より黒字化を目指しておりましたが、2億5,000万円の赤字となり、計画的には乖離が際立っております。このような状況にあるにせよ、今回のコンサルタント会社の活用は現場スタッフの理解があったのでしょうか。伺います。

また、これまで市と病院側が一体となって病院の経営や運営について協議し、経営改善に取り組む市立病院連携推進会議がありました。その中で改善策などが協議されてきたと私は理解しておりますが、それは違ったのでしょうか。伺います。

私は、経営が残り1年半を残す中、外部のコンサルタント会社の活用が医療スタッフ、事務スタッフの病院運営、経営改善へのモチベーションを低下させるのではないかと心配しております。この件に関して市長の見解を伺います。

私は、自分たちが計画をつくり、納得し、設定した目標値についてはそれに向けて頑張ろうとしますが、そうでないときはなかなか難しいということを経験的に知っております。そこで、コンサルタント会社の活用によって市長が達成してほしいとする数値目標、改善目標を伺います。

滝川市立病院は、中空知圏域の中核自治体病院として砂川市立病院と連携、補完し合いながら地域内で一定程度の医療を完結するという使命があります。人口減少、経済の縮小傾向の中、市立病院が地域医療の拠点となるための具体的施策を伺います。

今から20年後には滝川市の人口が3万人を切るという人口推計があります。そのときには滝川市、赤平市、芦別市の合わせた人口規模が今現在の滝川市の人口規模に相当するという予測があります。今のままでは医師不足、看護師不足など厳しい環境の中で自治体病院の運営が困難となり、経営が立ち行かなくなることは明らかであります。そこで、市長に提案いたします。私は、中空知の自治体病院の将来的な経営統合を見据え、(仮称)中空知自治体病院連絡協議会を設置し、経営統合へ向けての環境を今から考えるべきと考えますが、市長の見解を伺います。

◎2、元気な産業と活力あるまちづくり

1、農商工連携について

2、農業経営の省力化と低コスト化について

元気な産業と活力あるまちづくりについてですが、滝川市においてブドウ栽培とワイン醸造など農商工連携の成功事例となりつつあるものが出てきております。農業者、商工業者のウイン・ウインの関係を基本に地域内売り上げ増、雇用創出、モチベーション向上など波及効果を期待しておりますが、どのような効果を生むのか、官民連携となるのか伺いたいと思います。

担い手の減少、高齢化が進む中、滝川の農業の未来を切り開くスマート農業に大いに期待しているところでありますが、ニーズに対応したICT技術とは具体的にどのようなものか、市民の皆さんにPRする機会ですから、詳しく説明願いたいと思います。

◎3、豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくり

1、インバウンド観光の推進について

2、（仮称）たきかわ観光国際交流スクエアについて

3、豊かな自然・資源を活かした観光について

次に、豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくりについてです。インバウンド観光の推進については、訪日外国人観光客のニーズが有名な観光地から緑豊かで癒やされるスポット、そういったところを求めて、今は地方にも来訪することがよくあるそうです。そこで、受け入れのための施策と目標を明確にしていくことが重要であります。具体的施策と入り込み目標数を伺いたいと思います。

滝川駅横に設置予定の（仮称）たきかわ観光国際交流スクエアは、鉄路、陸路からの入り込みを想定していると思います。そこで、鉄路、陸路から滝川を訪れる外国人観光客の入り込み比率を伺いたいと思います。

また、そこでは多少の農産物の紹介や物販機能を併設するとしております。このことによって当初予定しておりました中心市街地に設置予定の滝川版マルシェを断念したのかと私は心配しておりますが、この件に関して伺いたいと思います。

最近の観光で注目を集めているのがインフラツーリズムだそうです。滝川は、これまでも自然、資源を活用した観光にチャレンジしております。そこで、さらなる観光の仕掛けづくりについて伺いたいと思います。

◎4、機能的な生活基盤の充実したまちづくり

1、官民連携による既存公営住宅改修について

機能的な生活基盤の充実したまちづくりについて伺います。官民連携による既存公営住宅改修については、昨日の答弁で説明されましたので、次に移りたいと思います。

◎5、誰もが住みよい安全安心なまちづくり

1、J R 根室本線の維持・存続について

2、除雪・排雪について

誰もが住みよい安心、安全なまちづくりについてですが、J R 根室本線の維持、存続について、短期的な支援策で中長期的な鉄路の維持につながるのか考えを伺いたいと思います。

市民の安心、安全な暮らしの確保に重要なのが冬の除雪、排雪体制の充実が挙げられます。道路交通網の確保対策で警報、予報等の事前予測に基づく降雪前、雪が降る前の除雪、排雪の体制について伺いたいと思います。

冬の除雪、排雪体制を支えるのがオペレーターの皆さんです。今オペレーターが高齢化してきており、将来的に除雪ができなくなるという不安がございます。そこで、若手オペレーターの育成はどの程度進んでいるのか伺いたいと思います。

冬の高齢者宅における屋根の雪おろしの助成事業、つまりその対象とする個人への助成ではなく、私はぜひ環境を整えていただきたい、そういった意味で雪おろしを行う側でのボランティア活動、あるいは団体や企業への助成について伺いたいと思います。

◎6、未来へはばたく子どもたちを育むまちづくり

1、幼児教育・保育の無償化について

2、コミュニティ・スクール制度の導入について

次に、未来へ羽ばたく子供を育むまちづくりについてです。10月から実施の幼児教育、保育の無償化について、私は1969年の教科書無償配布、そして1972年の児童手当の創設と並ぶ不朽の子供支援策であると思っております。しかしながら、このことを実施するに当たり、教育、保育の質を低下させるのではないだろうかという意見がございます。本市の見解を伺っておきたいと思っております。

子供の育成は、学校、家庭、地域社会の連携協力が重要との指針がございます。その意味でコミュニティ・スクール制度の導入が待たれておりました。そこで、今回挙げられているこのコミュニティ・スクール制度、どのような組織の設置を予定し、どのようなメンバーとなっているのか、また地域コーディネーターはどのような役割を担うのか伺っておきたいと思っております。

◎7、市民が活躍するまちづくり

1、各地区のコミュニティセンターの運営について

次に、市民が活躍するまちづくりについてです。連合町内会などで管理運営されている市内各地にあるコミュニティセンターですが、今後においても指定管理を継続して、地域連合町内会が運営を担うのか伺いたいと思っております。

私は、今後においては市内コミュニティセンターの管理運営を一括で民間企業へ委託することに変更すべきと考えております。このことにより民間のノウハウを生かした利用者へのサービス向上と市の歳出削減を図ることができるのではと考えております。市長の見解を伺いたいと思っております。

◎8、効率的な行政運営によるまちづくり

1、行財政改革の推進について

2、公共施設マネジメント計画について

3、ふるさと納税について

最後に、効率的な行政運営によるまちづくりについて伺います。平成23年度から進めてまいりました財政健全化計画も本年が最終年となります。そこで、収支の改善目標額5億円を達成できるのか気になるところであります。さらなる第2期財政健全計画を策定しようとしております。そこで、伺いたいと思っております。財政悪化の要因、原因はどこにあると考えているのか伺いたいと思っております。

財政健全化計画を策定する中でその中心となるのが人件費となります。今後の人件費、職員給与について市長の考えを伺います。

第2期健全化計画では、第1期計画で行えなかった見直しと新たな見直しとでどの程度の規模を考えているのか、またその実施時期はいつごろになるのか伺いたいと思っております。

公共施設マネジメント計画では、平成24年から10年間を取り組み集中期間として進めてきたと理解しております。しかしながら、どこまで進んでいるのかがわかりにくく、今年度より個別施設計画ではっきりすると思います。そこで、市民の中での議論も活発に行われると思いますが、施設利用者の市民理解を求めため今後重要になってくると思います。そのための説明会を開くのかどうなのか伺いたいと思います。

自主財源の乏しい地方にとってふるさと納税制度は地方の活性化、元気を呼び込む制度であります。滝川市においても歳入確保に大きく貢献しているのがこのふるさと納税制度です。寄附をしていただいた方へお礼の品として滝川の特産品をお送りすることで地場産業の活性化に大きく貢献し、効果をもたらしていると思っております。このふるさと納税制度、この6月から新たな基準が採用され、しばらくは寄附額の伸びが頭打ちになることが予想されます。そこで、さらなる拡大を目指すため新たなポータルサイトの増設を急ぐべきと考えますが、市長の見解を伺います。

以上で公明党を代表しての質問を終わります。

○議 長 三上議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

○市 長 それでは、公明党、三上議員の代表質問にお答えをさせていただきます。

まず、市立病院の経営改善ということですが、コンサルト会社の活用に市立病院の現場スタッフの理解があったのかというご質問ですが、コンサルタント会社を活用するに当たりましては市立病院との協議を踏まえ、平成31年度当初予算にて計上し、可決をいただいたところであります。4月24日には市職員、市立病院職員、コンサルト会社の3者によるキックオフミーティングを開催し、今後の業務の進め方や内容についての意見交換を行いました。既に市立病院から提供されたデータをもとに現状分析がなされ、今月から市立病院職員のヒアリングが実施されているなど市立病院職員の皆さんの理解のもとで業務が進められているということでもあります。

次に、市と市立病院が一体となって経営、運営などについて協議し、経営改善などに一体となって取り組んできたとの理解だが、違ったのかというご質問ですが、市立病院の経営や運営には市も予算協議等を通じてこれまでも経営状況や課題の確認を行い、一体となって取り組んでまいりました。地域医療を取り巻く環境が厳しい中、市立病院では平成27年度に想定外に経営状況が悪化をし、年度末に5億円の資金不足が発生したことなどによりまして平成28年度に経営計画を策定し、経営の立て直しと病院改築時に想定した収支計画を上回る経営状態にするべく取り組んでまいりました。しかしながら、残念ながら資金不足額は平成30年度末までの累積で8億4,700万円にまで拡大したことから、市立病院の経営問題を市全体の最重要課題と捉え、これまで以上に市、市立病院が一丸となるとともに、専門知識を有する有限責任監査法人トーマツ社の英知もいただきながら、それを結集しながら累積赤字の解消など直面する課題の解決に全力を挙げて進めていくということでもあります。

このコンサルト会社の活用が病院スタッフのモチベーションの低下につながるのではないかとご質問ですが、経営改善計画の策定や実行に当たっては現場をよく理解した病院職員の深いかわりにより進められていくことが重要であると考えております。コンサルタント会社も病院職員の皆さんの意見を計画に積極的に取り入れることを重視していることから、活発な議論が深

まる中で逆にモチベーションが高まっていただけていただけると考えております。

次に、コンサルト会社の活用での具体的な数値の目標に関するご質問でございますが、経営改善計画はすぐに実行できる短期的な改善策と中長期的な改善策に分けて策定し、令和5年度までに単年度収支黒字化を目指したいとするものですが、まずは平成30年度末までの累積で8億4,700万円の資金不足、これの解消を図るとともに、今後の具体的な数値の改善目標につきましてはさまざまな分析を行って行く中で今後明確にされていくということでございます。今現在ではなかなかお示しすることはできないということをご理解いただきたいというふうに思っておりますが、目標額が明確になった時点で具体的な改善策を議会の皆様方に説明していきたいと考えております。

次に、市立病院が地域医療の拠点となるための具体的施策についてであります。私の公約でございますイレブンプラスワンに市立病院の経営安定を図り、地域医療の拠点として維持をしますと掲げさせていただいております。滝川市立病院は、従来から中空知医療圏域の中核的病院として砂川市立病院と連携、補完し合いながら、この地域内で一定の医療が完結するよう医療機能を維持することを求められているところであり、滝川市立病院の使命は中空知地域の急性期医療を担っていくことだと考えております。そのためには、市政執行方針にも入れておりますが、経営改善と適正な医療従事者の確保が必要不可欠だと考えております。とりわけ看護師の皆さんの不足から病床を休床している現状にありますので、看護師の確保には努めていきたいと考えておりますし、急性期の拠点としては現有の医療体制の上にさらに消化器内科医の招聘も大きな課題であるというふうに考えております。

次に、中空知の自治体病院の将来的な経営統合を見据え、（仮称）中空知自治体病院連絡協議会を設置し、経営統合へ向けての環境を整えるべきとご質問ですが、現時点では今年度策定される経営改善計画に基づき滝川市単独での市立病院の単年度収支黒字化を目指してまいりますということですが、将来的に中空知全体として公立病院の役割や機能分担などを検討する必要があると、そういう場合においては各市、まちとの協議の場を設置し、考えていかなければならないというふうに思っております。私自身もこのことは必要であると考えておりますが、まずはお時間をいただきながら市立病院自体の収支の黒字化を目指してまいりたいというふうに考えております。

次に、農業者と商工業者の農商工連携事業におきましては、三上議員の期待と同じく地元農産品や農産加工品等の安定した販路の確保、原材料の安定供給などから生まれる波及効果に市としても大変期待するところであります。行政としまして農業者と商工業者の連携において生じる課題などに対し解決の糸口を見つけられるようサポートすることが必要だと認識しておりますし、誘致企業含め農業参入する事業者が地域に根づいていただくためにパイプ役となることも大事な役割と思っております。また、薬用作物やニンニク、モチムギなどの新しい作物への取り組みにはJAたきかわや農業者を巻き込んだ連携事業も進めているところであります。地域産業において農商工連携は極めて重要な取り組みと考えており、市といたしましてもしっかりとサポートをし、地域活性化につなげるよう取り組んでまいります。

次に、ニーズに対応したICT技術の導入ということについてのご質問ですが、昨日の柴田議員

のご質問でもお答えしましたが、今年度導入しましたR T K基地局を活用した自動操舵機能や携帯端末による水田の水管理技術などの普及を検討しております。自動操舵機能の活用では、田植え作業において通常は田植え機の運転者と苗を補充する補助者の2人で作業を行うところが自動操舵機能を活用することにより運転者が苗を補充できるため1名での作業が可能となったり、水田での水管理においては水田センサーや自動給排水栓を活用することで携帯端末で水田の水深や水温が確認でき、水田への給排水も管理できることから、水管理に係る労力の大幅な削減などが期待される場所です。今後もICT技術の導入によりさまざまな効果を検証しながら関係機関などとも連携し、農業者のニーズや地域の実情に合った技術の導入を進めていきたいと考えております。

次に、外国人旅行者の受け入れのための施策と目標についてのご質問ですが、平成27年10月に策定しました滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づきSNSを活用した地域の魅力を伝える情報発信や飲食店の外国語表記対応支援並びに海外プロモーションなどを実施し、平成27年、年間1,760人だった外国人観光客数を令和元年度には年間2,700人とする目標を設定しております。

次に、(仮称)たきかわ観光国際交流スクエアについての質問ですが、設置に当たりましては案内、情報発信機能、交流、文化伝承機能、そして地域支援、イベント、特産品PRによる活性化機能の3つの大きな目的が十分に達成されることを意識して設置場所を検討してまいりました。(仮称)たきかわ観光国際交流スクエアの入り込みの想定につきましては、自家用車やレンタカーによる旅行者の数を把握していないことから、比率を算出することはできかねますが、JR滝川駅の1日当たりの定期以外の乗客数は約170人となっており、高速バス等のバス利用者を含めると相当数の旅行者が設置予定の施設周辺に滞留している現状でございます。特に近年は富良野方面、旭川方面、北竜方面に向かう国内外の旅行者が増加し、乗りかえ時間を有意義に活用したいという声も聞いているところであり、交通の結節点としての利便性が高いことから相応の需要が見込まれるものと考えております。

次に、滝川版マルシェについての質問でございますが、(仮称)たきかわ観光国際交流スクエアとは別なものでありまして、断念するということではございません。平成29年7月から滝川商工会議所が中心となり滝川版マルシェ検討特別委員会において検討が進められ、昨年度の3月に報告書がまとまったところであります。すぐに常設型を開設することは、集客や商品アイテム、資金など課題が多く、さらなるニーズなどの情報収集の必要もあることから、まずはイベント的なマルシェを開催し、次のステップを検討していくとの方向性が示されました。この結果を受け、滝川商工会議所連携のもと滝川市産業活性化協議会が主体となり、8月にイベント的なマルシェの開催を予定しているところですが、引き続き関係団体と検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、インフラツーリズムについてでございます。暮らしを支える公共施設や土木景観等をめぐるツアー、いわゆるインフラツーリズムには現在取り組んでいるわけでございますが、既存の資源であります丸加高原の自然や観光事業者との連携による体験商品やイベントなどの活用可能なインフラツーリズムを組み合わせることで市外から訪れる旅行者がより長い時間滞在していただける仕掛けづくりにつきまして関係団体と検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、JR北海道が示します維持困難線区に係る短期的な支援の内容につきましては、北海道が主導しており、定時性や利便性、快適性の向上など利用促進に資する設備投資等を対象として緊急かつ臨時的に講じられるものであります。6月4日に根室本線対策協議会が開催され、北海道から支援内容及び支援額について説明があったところでありますが、他線区への影響などを鑑み、北海道が6月中旬に統一的に公表する予定であり、自治体による公表を控えることというふうにされております。この支援につきまして、北海道が第2回定例会、自治体が第3回定例会での補正予算になるものと認識しており、北海道の公表後に手続等も含めていく考えであります。あくまで2カ年の短期的支援でもあり、中長期的な線区の維持方策とは別物となります。短期的な支援は、国がJR北海道に支援を行う根拠となる法律の期限が切れる2カ年を想定しており、2年後の法改正を視野に去る4月19日に北海道は持続的な鉄道網の確立に向けた検討会を立ち上げ、2カ年の支援後の路線維持の考え方や地域支援のあり方について検討に入ったところで、年内には国に提案するための方針を打ち出すというふうに向っております。本市といたしましては、北海道における議論の意見を注視しつつ、根室本線対策協議会でも十分な協議を尽くしながら判断してまいりたいと考えております。

次に、警報、予報等の事前予測に基づく除排雪対策では、警報等の気象情報が発せられたときには委託業者と情報共有し、対策について協議を行っております。その時々々の道路の現況を勘案しながら、除雪により交通障害を来す可能性があるかと判断された幹線道路については、運搬除雪や拡幅作業等、可能な限り事前の対策を講じることにより道路交通網が確保されるように努めております。

また、若手オペレーターの育成であります。これまで若手オペレーターの育成や技術継承に関する取り組みを進めてまいりましたが、現在20代2名、30代9名のオペレーターが除排雪業務に従事しております。しかしながら、除排雪作業の担い手である建設業界自体の厳しい人材不足に加え、除排雪作業の多くが夜間であることなどの労働環境も相関し、若手オペレーターを取り巻く環境の厳しさに変わりはありません。これまでの取り組みに加えて、安心、安全な冬期間の道路交通網確保に欠かすことのできないオペレーターの確保について市及び建設業界とともに共通の課題と認識しており、継続的に取り組んでいく、そのような課題であると考えております。

次に、高齢者住宅における屋根の雪おろしにつきましては、福祉除雪において家屋の倒壊や損傷等の危険性が高い場合は、平家であり、市内にお子さんが居住していない方に対し年1回屋根の雪おろしを実施しているところであります。福祉除雪の対象にならなかった方や除雪や屋根の雪おろしでお困りの方のご相談があった際は、対応していただければそのような業者の情報提供をさせていただくなどの対応に努めております。そのほか、除雪については小型除雪機を貸し出して行うコミュニティ除雪、ボランティア等による除雪、町内会による除排雪など幾つか共助の体制がありますが、屋根の雪おろしについては高所での作業ということから、高齢化が進む中、安全性の面や人員の確保など対応が難しい状況となっているところであります。

次に、幼児教育、保育の無償化につきまして3歳から5歳までは全世帯、ゼロ歳から2歳までは住民税非課税世帯を対象に幼稚園、保育所の保育料が無償化されることとなります。保育の質の低下を招くのではないかとのご質問であります。特に大都市圏におきましてはさまざまな認可外保

育施設があり、指導監督基準を満たさない施設に対しても5年間の猶予期間が設けられたことなどから、ご心配の声があるものと考えております。滝川市におきましては、幼稚園、保育所における入所要件や保育基準等が変わるわけではなく、また認可外保育施設におきましても指導監督基準を満たしていることから、無償化の実施が質の低下につながるものとは考えておりません。

次に、各地区コミュニティセンターの運営に関するご質問でございますが、コミュニティ施設12館については平成15年度から管理委託として、平成18年度からは指定管理としてそれぞれの地域において組織をしていただいた運営委員会が管理運営を行っていただいております。コミュニティ施設は、地域との結びつきが強い地域密着型施設であり、地域の皆さんの活力を積極的に活用することにより事業効果が期待できることから、非公募で選定をしております。市としましては、コミュニティ施設のこうした特性から今後も継続して地域の運営委員会へぜひ指定管理をさせていただければというふうに考えております。

次に、その指定管理者を民間企業に変更する考えはないかというご質問でございますが、12館それぞれで運営委員会の皆さんが災害時の避難所や高齢者や子供たちの居場所づくりなど地域の特性を生かした施設の管理運営に取り組んでいただいております。また、コミュニティ施設は運営委員会のみならず、例えば花壇づくりや窓ガラス清掃など地域の皆さんのボランティア活動に支えられている部分も大きく、コミュニティ施設の効果的、効率的な管理運営に地域力というものが発揮されているわけでございます。これらのことから民間企業の変更は現在考えておりませんが、今後皆様方の意見をお聞きすることは必要かなというふうに考えております。

次に、財政悪化の原因はどこにあるかのご質問でございますが、平成27年12月に財政健全化計画を策定し、平成27年度から5年間を計画期間と位置づけ、収支改善目標額を5億円として、事務事業の見直しや組織、人件費の見直し、歳入確保対策を着実に進めてきたところであります。その結果、平成31年度当初予算時では一部公共施設の集約、複合化など未達成の項目もありますが、事務事業の見直しで84.8パーセント、組織、人件費の見直しで87.6パーセントを達成、歳入確保対策も計画以上に達成できたことを踏まえすと、一定の成果があったというふうに考えておりまして、決して財政が悪化しているということではございません。しかしながら、現財政健全化計画策定時には想定をしていなかった市立病院の経営改善など喫緊に対応しなければならない財政課題が生じ、新たな財源措置が必要となったということから、第2期の財政健全化計画を策定をして、将来にわたり持続可能な財政基盤の確立を目指していきたくとするものであります。組織一丸となって行財政改革に取り組んでいく所存であります。

次に、今後の人件費に関するご質問でございますが、財政健全化計画において人員の見直しは事務事業見直し及び機構改革とセットとの考えに基づき取り組みを進め、平成26年度当初予算と比較して一般職32名が減少するなど組織のスリム化を図ってきた状況であります。人件費、職員給与につきましては、これまでの考え方のもと事務事業について見直すべきところは見直していく、より一層力点を置くべきところには力を入れていく等メリハリをつけた見直しを行いながら、組織、人件費の見直しにつなげていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

この第2期財政健全化計画の規模についてのご質問でございますが、第2期財政健全化計画は市

立病院の累積赤字解消に向けた財政出動が大きなウエートを占めることとなるというふうを考えております。ご質問の計画における見直しの規模についてであります。現在進めております市立病院経営状況の分析結果やこれから作成する中期財政フレームなどをもとに市立病院の累積赤字解消のための一般会計からの繰出金増額などを含めてどのような方策がどの程度必要なのか判断していくこととなるため、現段階においてその規模についてお示しすることはできませんので、ご理解をいただきたいと思います。

なお、計画期間につきましては、今のところ令和2年度からの5カ年を予定しているところであります。

次に、個別施設計画等の策定に当たって市民説明に関するご質問ということですが、公共施設個別施設計画につきましては今年度中に計画の方向性を整理し、令和2年度の策定を目指しているところであります。現時点では計画策定に向けてどのように進めていくかを含めて検討している段階でありまして、計画の説明方法等を示すことは今現在できませんが、必要性を見きわめながら市民の皆様のご理解を求めるような場を考えてまいりたいと思っております。

次に、ふるさと納税の新たなサイト増設についてのご質問でございますが、本市のふるさと納税につきましては昨年度当初の目標を2億円としておりましたが、ANAのふるさと納税の通年化及び新たなポータルサイト、さとふるの開設やお米の頒布会の回数をふやすなど寄附者のニーズに応じていく取り組みを実施した結果、目標を大きく上回る8億円以上の寄附を集めることができました。本年6月から施行される新基準下においても今年度設定した寄附目標額の7億円を達成するためさまざまな取り組みを行っていかねばならないと考えているところでございます。その取り組みの一つといたしまして、三上議員もご指摘のとおり新たなポータルサイトを開設し、広くPRしていくことが重要であると認識しているところでございます。現在準備、検討を行っているところでございます。後ほどそれをしっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

済みません。数字の読み間違いがございましたので、1カ所訂正をさせていただきます。たきかわ観光国際交流スクエアのJR滝川駅の1日当たりの定期以外のお客様の乗客数を私何か170人と言ってしまいましたが、710人の間違いでした。数字が大きく違っていて、まことに申しわけございません。

以上、訂正させていただきます。

○議長 教育長。

○教育長 私からはコミュニティ・スクール制度について答弁させていただきます。

この制度につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成29年より制度の導入が努力義務化されました。本市においては、一昨年より準備を始め、先進事例の調査や学校管理職を対象とした研修会、制度導入に向けた準備委員会などを開催し、本年4月から運用を開始したところです。導入に当たり、保護者や地域の皆様にご協力いただいた準備委員会での議論を参考とし、義務教育9年間の子供たちの成長を見守るため市内4つの中学校区ごとに学校運営協議会を設置することといたしました。既に3地区の協議会がスタートを切っておりますが、各協

議会の構成としましては学校長の推薦のもとPTA役員や教職員OB、地域企業、育成会、児童委員、学校関係者などから選出し、委員として任命させていただきました。学校運営協議会の役割は、学校長が作成する運営方針の承認や学校運営に対する評価や意見をいただくこと、さらには学校支援に関する企画調整を行っていただくことを役割としております。その中で今年度より2名体制としております地域コーディネーターが学校、家庭、地域を結びつける役割を担い、さらには協議会の運営にかかわりながら教育活動の充実や教職員の負担軽減を図り、子供たちの豊かな成長を支える地域とともにある学校づくりを進めてまいります。

以上です。

○議長 答弁が終わりました。三上議員、再質問ございますか。三上議員。

○三上議員 2点質問いたします。

まず、1点目なのですが、財政悪化の要因、原因、今聞くと病院経営の赤字が最大要因だというような答弁でした。私は、確かに結果としてはそうだったかもしれませんが、しかしながら、一般会計の繰り出し基準がその額に追いつかないほど抑制されていたということが第一だと思っております。それは、市長部局のいわゆる行財政がいまいち、いま一步進んでいなかったがために繰り出しできなかったのではないかという思いを持っている、病院職員の方には一々聞いておりませんが、多いのではないかなと思いますけれども、市長はどのように思うかまず伺っておきたいと思っております。

それと、2点目なのですが、人件費の職員給与、私は職員の給与を削減すべきでないと思っております。それは、やはり職員の皆さんも常日ごろ一生懸命頑張っております。削減することによってモチベーションの低下ということが心配なのです。ですから、給与を削減するというのではなく、年次計画的に職員数を削減していく、そしてきょうも傍聴で市民の皆さんいっぱいいらっしゃっておりますけれども、申しわけないですけれども、行政サービスも、不必要とは言いませんけれども、余り利用されていないサービスについては思い切って削減していく。これまでも市長は削減してきたとおっしゃると思っておりますけれども、それをやっていく。そして、私もまず一番大切なことがやっぱり職員数、これは臨時職員、嘱託職員を本当に、先ほど申したとおり、減らしていく、このことが大事ではないかなと思っております。

この2点について再質問させていただきます。

○議長 三上議員の再質問に対する答弁を求めます。市長。

○市長 ただいまの三上議員の再質問にお答えをさせていただきたいと思っております。

まず、財政健全化に向けての第2期をつくる、その原因は悪化したのは市立病院の累積赤字であるというふうなことに捉えていただいたようですが、私といたしましては確かにいろいろな形の財政健全化を求めていく必要がありますと。そして、第1期の今現在行っているのが終わりますと。では、次につくらなくていいのかということではなくて、切れ目なく財政健全化を求めなければいけないというのが一番最初でございました。そこに来ているので、第2期の財政健全化計画ということになります。そこで行いたいのが累積赤字が発生をした市立病院の問題、これを大きな問題として、地域医療を守るためにこちらを優先として考えていきたいと思います。そ

してまた、繰り出し額についてのお話でございますけれども、確かにそのようなご指摘もござい
ます。私どもも繰り出し基準、病院と決めていた以上のものを出して、一般の繰り出し額と同等の
ものが出せば確かにそのような赤字はなかったというふうになると思います。ただし、それがで
きなかった状況があるために今まで努力してまいったということでございまして、私どもは決して
病院職員の皆さん方の努力が足りないからこのようになったのだと批判をするつもりもございませ
んし、私ども全員がそれを考えなければいけない問題であるというふうに思っております。今後第
2期の財政健全化計画の中においてそれらを明らかにしながら、先ほどの答弁でも申し上げました
けれども、繰り出しの増額についても考えてまいりたいということを申し上げたはずでございます。
そんなことを含めて検討しながら、この問題が誰が悪いのではなくて、誰かが何とかしなければい
けないということに置きかえて進めてまいりたいと思っておりますので、ぜひご理解をいただき
たいと思います。

次に、2つ目のご質問でございますが、職員給与削減、最初からそのようなことを考えていくよ
うなことは私は決してしておりません。それは、やはり人員削減等々、先ほどもお答えしたとおり、
さまざまな見直しを行いながら進めてまいりたいと申し上げているわけでございまして、先ほどの
答えの中には人件費を削減しますとは一言も触れておりません。人員削減等々いろんなサービス
を見直していくということを言わせていただいたはずでございます。その中において個別の施設削減
計画、公共施設等の削減もそうでございます。多くの市民の皆様方にご不便をおかけしているところ
もございすけれども、いろんなさまざまな施設を少しずつ減らせていただいております。それ
もやはり財政健全化のために必要であるということでございす。ただし、人員をどれだけ減ら
していくということはこれからの問題、課題でありますけれども、住民サービスの低下だけではでき
ないというふうに思います。必要な人員によって必要なサービスを維持していく、それがどこにあ
るのかというのがこれからの課題でありまして、そのことをしっかり考えてまいりたいと思っ
ております。そのような考えのもと第2期の財政健全化を図りながら、そして人件費、そして組織の見
直しを図っていきたくて考えておりますので、その基本的な考え方をぜひご理解いただきたいと思
います。

以上です。

○議 長 以上をもちまして三上議員の質問を終了いたします。

これをもちまして令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する代表質
問を終了いたします。

◎日程第3 令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する質問

○議 長 日程第3、これより令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に
対する質問を行います。

質問の時間は再質問を含めて15分以内の持ち時間制となっておりますので、質問、答弁ともに
要点を簡潔にするとともに、通告の範囲を遵守するようお願い申し上げます。

寄谷議員の発言を許します。寄谷議員。

○寄谷議員 こんにちは。日本共産党の寄谷猛男です。当選後初めての質問になります。きょうも多くの傍聴の方がいらっしゃって、そういう皆さんにわかりやすい質問に努めていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

では、通告に従って、質問させていただきます。

◎1、豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくり

1、「(仮称)たきかわ観光国際交流スクエア」開設について

2、インバウンド観光の推進について

古くからこの滝川に住んでいらっしゃる方にとっては駅前がだんだん寂しくなっている、まちの活性化に期待すると、そういう声が高いと思えます。それでまず、豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくりということで、先ほどからも話に上がっているたきかわ観光国際交流スクエアの開設について伺ひます。

中心市街地にこういう交流スクエアを開設するとしていますが、スマイルビルを活用する検討はなされたのでしょうか。今回の開設により職員と関係団体を合わせて10人以上が勤務し、観光客と在住外国人、交流にかかわる市民の対応に当たり、国内と、あと外国からいらっしゃる旅行客、その観光の活性化を図ることについては評価できます。ただ、情報の収集、発信基地として多くの人に立ち寄ってもらおうということを考えれば、駅からすぐ見える、目につくスマイルビルに開設することが市民の期待に沿うものと思われます。これについては、エレベーターの修繕の関係でたきかわホール、それから「く・る・る」、「とんとん」を廃止したというような事情もあるので、それもあるかもしれませんが、どのような経緯で旧中央バスターミナルの開設に至ったのかを伺ひます。

次に、観光国際課などが市庁舎から観光スクエアに移転すれば、庁舎の空きスペースがふえます。その有効活用について伺ひます。これに関しては、昨日チーム滝川について田村議員が質問され、それについての答弁で垣根をつくらない、みずから提案する姿勢を求めたいというふうには市長はおっしゃいました。昨今のIT産業などのオフィスでは経営戦略に沿ったレイアウトなどをオフィスで取り入れているという話を伺ひています。そこで、有効活用についてどのような活用をするのかについて構想があれば伺ひます。

次に、インバウンド観光の推進に向けてホームページやSNSなどを通じて、活用して魅力発信を行うというふうにはしていますが、主に発信先として対象としている国、それから発信する魅力の内容について伺ひます。

何を魅力とするかは、滝川の特徴を出すものであり、まちづくりの方向性と結びつく重要な要素だと考えます。例えば中国、それからハワイ、オランダといえは頭にチューリップだとかいろいろ、万里の長城だとか浮かぶと思えます。同じように北海道についても雄大なイメージというのを本州の方、海外の方は想定されると思うのですが、地域を狭く、空知、それから滝川というふうになると何だろうというふうに思われる方がまだ多いかと思えます。そういう意味では、滝川といえは何なのか、そういう連想してもらふ魅力、これをもっと打ち出す必要があるのではないかと思えます

が、それについて伺いたいと思います。

◎2、誰もが住みよい安全安心なまちづくり

1、JR根室本線（滝川～富良野間）の維持・存続に向けて

次に、JR根室本線については、昨日の山口議員、それから先ほどの三上議員が伺っていますので、これについては割愛します。

◎3、未来へはばたく子どもたちを育むまちづくり

1、「第2期滝川市子ども・子育て支援事業計画」の策定について

次に、未来へはばたく子どもたちを育むまちづくりについて伺います。第2期滝川市子ども・子育て支援事業計画を策定するというふうにしていますが、昨日の柴田議員が質問されましたが、子供の医療費の無料化、この段階的实施については難しいというような話がありました。そこで、この事業計画を策定するに当たりその策定の基準、優先順位についてどのように考えているのか、それについて伺います。

それに基づいて、この事業計画から漏れた場合、そういう場合でも計画実施期間中その漏れたものについては何もしないのか、あるいは計画から漏れているけれども、復活すると、そういうことはあるのかについて伺います。

◎4、教育行政

1、学校教育について

次に、学校教育について伺います。35人学級制については、昨日も話し合われていますが、その中で教員の増員、これが必要だという話がありました。ただ、市内の小学校では35人を超えるクラスというのは数少ない状況にあり、数人の教員をふやせば実現できるのではないかと思います。そのあたりまで、現在小学校の3、4年生でとどまっていますが、小学校5、6年生、中学校2、3年生まで拡大するというに当たっての課題、これは何なのか伺います。

それから、学校施設の整備ですが、今年度は滝川第二小学校の体育館の床の改修工事、それを実施するほか、施設の安全点検を定期的に行うものとしています。昨年度各施設の老朽化評価を行い、長寿命化改修方針を策定しています。それを受けてのことだと思いますが、それでいけば築40年を超える校舎が多い中で、当面は第二小学校の体育館の床の修理だけで足りて、ほかのところについては定期点検を行えばそれで足りていると、そういう状況なのか、築40年を超えている校舎についての状態について伺いたいと思います。

以上です。

○議 長 寄谷議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

○市 長 それでは、寄谷議員のご質問にお答えをさせていただきます。

仮称でございますたきかわ観光国際交流スクエアの開設についてご質問ですが、先ほどの三上議員のご質問でもお答えさせていただきましたが、開設場所につきましては目的であります3つの機

能を推進するに当たり、JR滝川駅並びに駅前広場にJR列車の利用者、バスの利用者等が多数行き交うことから、また交通の結節点として市民にとっても利便性が高いということを勘案し、中心市街地において設置場所を検討してまいりました。また、インバウンド観光並びに国内の観光客に対し観光総合案内を一元的に行うことにより新たな経済波及効果や地域文化の創造につなげるということなど地域経済の活性化を図る上で目的を達成するためには滝川の玄関口の一つである旧中央バスターミナルを活用することがふさわしいだろうというふうなことで判断をしたわけでございます。

次に、観光国際課等の移転に伴います庁舎の空きスペースの活用に対してのご質問でございます。基本的に執務スペースの一角でありますから、情報管理が大切な部分もございまして、その活用にも一定の制約があるわけでございます。現段階におきましては、職員の連携を高めるべく会議や打ち合わせのスペース、また来庁された市民の皆様のお話を伺うためのスペースとしての活用を中心に検討しておりますが、ただいまの寄谷議員のお話がありましたとおり市の職員がもう少しフリーにできるような場所をつくるとか、またはほかの団体のどなたかに入っていただくようなこと等含めて総合的に判断してまいりたいと考えておりますので、もう少しこの決定にはお時間をいただきたいというふうに思います。

次に、インバウンド観光の推進についてのご質問であります。現在観光国際課には、アメリカ、モンゴル、シンガポールから各1名、合計3名の国際交流員を配置しております。そのうちシンガポールからの国際交流員が主にSNSを活用して東南アジアをターゲットにインバウンド観光の魅力発信を行っております。また、地域おこし協力隊員を配置し、台湾、タイでの観光プロモーションを実施しているほか、当市の魅力をEメールなどを利用し、海外などの観光事業者に情報を発信してきたところであります。滝川を訪れた外国人観光客は、主に中国、タイ、台湾、香港、シンガポールなどですが、宿泊客や菜の花まつりなど統計がとれている分だけでも平成26年度800人だったこの観光客が平成29年度実績で2,400人とふえており、とりわけタイからの観光客は飛躍的に伸びている状況であります。また、魅力の内容につきましては、ブランドとなっています菜の花やジンギスカン、スカイスポーツなどを基軸として、当市が誇る岩橋英遠画伯、ランターンフェスティバルなどの観光資源の情報発信を行っているところであります。

次に、第2期滝川市子ども・子育て支援事業計画につきましては、幅広い意見を反映させるため保護者の方、事業主の方、学識経験者などから組織された滝川市子ども・子育て会議において本年1月に実施したニーズ調査の結果や委員の皆様のご意見をいただきながら、令和2年度から5カ年の滝川市における子育てに関する総合的な計画を策定するものであります。子供の医療費の無料化、また学校給食費無償化等につきましては、昨日の柴田議員からの質問にお答えさせていただきまして、行財政改革におけるさまざまな検討課題がある中であります。今後それらを含めながら考えてまいりたいというふうにお答えしました。だめと言ったつもりはございません。しっかりと考えてまいりたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

また、この計画に詳細に記載することは考えておりませんが、記載していない事業は一切やらないということではありません。そのような形で進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解をい

ただきたいと思います。

私から以上であります。

○議 長 教育長。

○教 育 長 少人数学級拡大に関する質問であります。昨日の答弁と重なるのですけれども、小学校1年生は国、そして小学校2年生、中学校1年生は道の制度、そして小学校の3、4年生が本市独自の施策により35人学級を編制しているという状況にあります。今後なのですけれども、議員さんのほうから今は少ないというお話も出ましたが、今後については、確かに児童生徒数は減少傾向にあります。ただ、小学校3、4年生に着目した場合、北海道教育委員会の学級編制基準である40人を下回る学校がふえるとともに、本市の少人数学級実践研究事業による35人学級を編制する学校の増加が今後見込まれております。このような状況を踏まえつつ、従前から少人数学級実践研究事業の対象を小学校5、6年生まで拡充する方向で検討しておりますが、新たな人的配置は大きな財政負担を伴うことから、引き続き市全体で政策協議の場で議論してまいりたいというふうに考えています。

なお、中学校2、3年生についての拡充については、現在のところ検討しておりません。本事業については、児童生徒の生活及び学習の両面において個に応じたきめ細かな指導ができるなど大きな効果があらわれているという調査結果はありますことから、国や道における35人学級の対象学年の拡充につきまして早期に実施されるよう全国、全道の都市教育長会を通じて要望してまいりたいというふうに考えております。

次に、学校施設の整備に関する質問ですが、毎年複数回の施設点検や学校職員による日常的な点検を実施し、老朽度や損傷の状況把握に努めております。今年度工事予定の滝川第二小学校体育館床改修工事につきましてもこれらの点検により損傷状況や危険度を考慮し、優先度が高いと判断したため実施するものであります。また、小中学校に関する今後の整備方針につきましては、本年第1回市議会定例会で総務部長が答弁しているとおおり、市立高等学校を含めた公共施設全体の個別施設計画策定を進める中で各施設の具体的な方向性を決定していくこととしており、現時点においては具体的な内容をお示しできないことをご理解いただきたいと思います。今後におきましては、市長部局とも協議を進めてまいりますが、当面の間施設の安全点検や劣化度調査をしっかりと行い、必要な工事や修繕を実施しながら、子供たちが安全で安心な学校生活を過ごせるよう努めてまいります。

以上です。

○議 長 答弁が終わりました。寄谷議員、再質問ございますか。寄谷議員。

○寄谷議員 2点ほど伺います。

1点目は、子供の医療費の無料化のことです。先ほども市長は私はやらないとは言っていないというふうに言われましたが、きのう私もそのように聞きました。その中で、再答弁の中で財政を言いわけにせず医療費の無料化、また屋内球技場のどれかを実現したいというような話をされたこと記憶しています。そこで、その場合、子育て支援、これを策定するに当たっての考え方、優先順位についてどのように考えているのか伺います。

ニーズ調査をされたということですが、平成の27年と、それから昨年と行われています。その結果を見ると、未就学の保護者のところで経済的な負担、不安を感じるが41.9パーセント、小学生の保護者のところで44パーセントありました。それが昨年度の同じ質問の中では、未就学のところで44.1パーセントにふえています。また、小学校のところで46パーセントにふえてきているということで、経済的な負担、不安を考えていらっしゃる子育て世代の親御さんがふえています。これは、非常に重いというふうに私は考えています。ですから、どういう支援をするのか、財政を言いわけにせずに実施するのであれば、そのような市民の方の願いをしっかりと受けとめるということが必要ではないかと考えますが、それに当たってのお考えを伺います。

もう一つは、学校施設の整備ということで個別施設計画を立てるということですが、その場合についての危惧している点がありますので、伺います。利用頻度が高く、市民の避難場所でもある学校施設です。この修繕については今は小規模に取り組んでいますが、ほかの公共施設の老朽化対策にも同じような考え方が貫かれるのか伺います。

学校については小規模な修繕を繰り返すというのに対し、ほかの公共施設は建てかえるというような基準で、個別施設計画の計画に当たっては同じ考え方が貫かれるのか伺います。

以上です。

○議 長 寄谷議員、今の再質問の中で公共施設についてのことを聞かれましたけれども、この部分はこの質問の趣旨とはちょっと違うので、質問としては不適切かなと思いますので、ご判断願います。

○寄谷議員 今回の2点目の質問については、私のほうで整理できていないこともありましたので、これについて取り下げます。初めの質問についてだけ伺いますので、よろしく願います。

○議 長 寄谷議員の再質問に対する答弁を求めます。市長。

○市 長 ただいまの寄谷議員の再質問にお答えをさせていただきたいと思えます。

第2期の子供の計画の中でご質問の再質問でございます。子供医療無料化または給食費等々、私としても今後大きな課題として考えてまいりたいと申し上げております。きのう、そして先ほどもご答弁させていただきました。やはりその前提が財政健全化が進む中において判断したいということでございまして、その後ということはつけ加えさせていただきたいと思えますが、先ほど寄谷議員のアンケート等の分析のとおり、さまざまなお声があるのは私も承知しているわけでございまして、そのようなお声を大事にしながら、どの施策から行っていくべきかということはそのお声を大事にしながら今後判断してまいりたいと思っている次第でございます。まだどれからいく、どうするのだということは考えておりませんので、その辺はご理解いただきながら、さまざまなお声を寄谷議員からも私のほうにお寄せいただければと思う次第でございますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議 長 以上をもちまして寄谷議員の質問を終了いたします。

これをもちまして令和元年度市政執行方針及び補正予算大綱、教育行政執行方針に対する質問を終了いたします。

- ◎日程第4 議案第1号 令和元年度滝川市一般会計補正予算（第1号）
議案第2号 令和元年度滝川市介護保険特別会計補正予算（第1号）
議案第7号 滝川市介護保険条例の一部を改正する条例
議案第8号 滝川市民会館条例を廃止する条例

○議長 長 日程第4、今期定例会の初日にご説明したとおり、この日程において令和元年度滝川市各会計補正予算及び関連議案に対する質疑、討論、採決を行います。

これより議案第1号、議案第2号、議案第7号及び議案第8号の4件について一括質疑に入ります。質疑ございますか。本間議員。

○本間議員 それでは、1点だけ質疑をさせていただきます。

15ページでございます。農村環境改善センター改修工事実施設計委託料300万円ということになっております。このことについて質疑をさせていただきます。以前一般質問の中で総合交流ターミナルたきかわ、通称道の駅たきかわとの連携ということについてお話をしたことがあります。実は北門信金も新しくエリアに建てていただきまして、実は江部乙の象徴的に中心になっていくということのタイミングの中でこの改修工事は大変重要な位置づけを持っているというふうに多分ご認識をいただいたというふうに理解しておりますが、この実施設計、いわゆるこの連携というソフトな部分、それからそれを生かすハードな連携、ハードな部分の整備というのはどのように考えられて、ここに落とし込んでいかれるというふうにお考えなのか、その具体的な取り組みについてお伺いをいたします。

○議長 長 答弁を求めます。市民生活部長。

○市民生活部長 改善センターの道の駅との連携ということについてですけれども、以前から議会でもご質問いただいており、我々のほうでも検討しております。まず、ソフト的なことにつきましてですが、江部乙地域の方、もしかしたら東滝川も同じかもしれませんが、江部乙地域の方々は自分たちでやっぱり課題を解決して、自分たちのみずからの活動で地域の課題を解決していております、今までも。そういうことを前提にして、改善センターについてはそういうハード面、建物の中ですけれども、今回の設計は。ハード面についてそういう集いの場であったり、何かを行う場であったり、そういう整備をしたいと考えております。その中で道の駅の利用者ですとか、外との交流の中でさらにそういったことが効果的になることも考えられると思いますけれども、それはやっぱり地域の方々がどういうふうに考えられるかということになってくるところもありますので、そういったところについては積極的に支援してまいりたいと考えています。

あと、ハード的な連携につきましては、正直懇談会の最後の意見の中では駐車場といいますか、改善センターの前のところ、そこを何とか駐車場を広くするなり、あるいはイベントをできるようなスペースがあったらいいのではないかというようなご意見もいただきました。市長、副市長とも協議しておりますけれども、今実施設計をやる段階で事業費が明確にわかりませんので、事業費が明確になった暁と、それから財源、今有利なメニューの起債を前提に考えておりますけれども、そういったことが可能であって、施設も思ったより高くない改修で済んで、ある程度の投資がで

きるような状況になれば、そういったところも考えたいなということは考えておりますけれども、今まだそういったことが判断できるような状況にはないところですので、ご理解いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議 長 本間議員。

○本間議員 やりたい気持ちというのはちょっと伝わってきました。要するにソフト的にも何かをやる可能性を残す形というのがやはり大事だと思いますので、改善センターの前はロータリーみたいなというか、丸い、非常に平らであればもっと使えるのになとかということは私自身も思っているところでありまして。これは、いずれにしてもそういう要件も含めて、この補助金なのか交付金なのかちょっとあれですけども、その要件にはまるかハマらないかちょっとわかりませんが、ただ能動的にやはりこれは何かうまくお金のことはやりたいなという感じのご答弁だったのでですけども、ぜひこれは前提に置いて進めていくべきではないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議 長 副市長。

○副市長 本間議員の前向きなご質疑、ありがとうございます。ただ、今うちの市民生活部長も答えましたけれども、例えば駐車場の関係ですと道の駅の管理している部分と、あとは改善センターが管理している部分が別になっているという部分があります。そこを一体的にどうできるかということをやっばり地元の皆さんのご意見を聞きながら、できる範囲はしっかりやっていきたいと思っておりますので、今後ともいろいろご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議 長 山口議員。

○山口議員 それでは、16、17ページ、消防費の防災費です。移動系無線設備更新工事実施設計委託料について何点かお伺いしたいと思いますけれども、一般的に移動系の無線設備というのは市役所に基地局を置いて、車、車材用の移動無線設備、それから携帯型の無線設備、それと野外でテントなど等の半固定式移動無線設備というのがあるのですけれども、説明の中では32台ということで説明いただきましたけれども、その割合についてまずお伺いしたいと思います。

それから、一般的には災害に遭ったときに移動先と細かな連絡をとれるようにということで配備をするのですけれども、関係の例えば避難所であるとか、そういうところにも配備をする予定なのかということもお聞きしたいというふうに思います。

それと、運用のスケジュールなのですけれども、今回は実施設計の委託ですから、これからどの段階で実際に実施工事をして、運用をするのは次年度なのか、そのあたりもお聞かせ願いたいというふうに思います。

それと、デジタル無線なので、消防のデジタル無線との防災上のリンクということも可能になるはずなのですけれども、その方法についてどういうふうに考えているかお聞かせ願いたいと思っております。

○議 長 答弁を求めます。総務部長。

○総務部長 大きく4点のご質疑だと思いますけれども、まず無線のそれぞれの割合というご質疑でございますが、現在32台ということで、基地局、これは市の庁舎にございますが、そこに1台と。車、公用車に車載用として25台、あとはハンディー、持ち運びできるような形のものが6台

というのが現状でございます。

今後移動先と避難所等に配備するののかという2点目のご質疑でございますが、今年度実施設計ということで現在予算を計上させていただいておりますけれども、今後どういった配備の台数にするかという部分についてはこの実施設計も含めて最終的な台数については確定していきたいというふうに考えておりますが、今お話ありましたとおり、避難所等についてきちっと配備できるようなことについては十分検討してまいりたいというふうに考えております。

それと、3点目の実施設計、今回補正予算という形で提案させていただいておりますが、いつから工事かという部分でございますが、この実施設計予算を可決させていただいて、すぐ設計に着手できるというふうになれば新年度、来年度工事に着手したいという方向で考えております。着手して、ある程度整備が整った段階で運用という形で考えていきたいというふうに考えております。

消防とのデジタル無線とのリンクでございますが、これについても今議員からお話ありましたとおり可能という部分はございますが、これについてもリンクを本当に即するのがいいのかどうかという部分も含めて今回の実施設計の中で十分効果、あるいはリンクすることによって何か支障は出るのかどうかという部分も含めて検証してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 長 寄谷議員。

○寄谷議員 まず、15ページ目のプレミアムつき商品券事業について伺います。

この規模からいくと、伺っている計画では事業対象者は市民の約4人に1人と。期間も半年と決して長くはないと思いますが、その施策の効果について認識を伺いたいと思います。

それから、16、17ページ目のたきかわ観光交流スクエアの運営管理に要する経費ということで半年間の賃借料が掲載されています。この開設する場所については駅の出入り口から見えにくいということもあり、国道から少し奥まっているということで交通の便のいいところではあるのでしょうけれども、どちらかといえば人の目につきにくい目立ちにくい場所にあります。そこで、開設に当たっては賃借料の負担だけでなく、そういう外装とか、あと中で例えばテナントとか設置するのであれば、そういう費用もどちらが負担するのか、貸し主か借り主かという問題も出てくると思いますが、その辺についてご説明お願いしたいと思います。

それから、計画では来年3月末までの期間となっておりますが、この計画からいけば継続されるものと思われませんが、賃貸借契約の更新の期間、それから更新の条件、賃料が非常に格安ですが、継続されるのか、この見直しの期間、それから契約の期間についても長期であればこの計画の見直しが必要になった場合にこの賃貸借契約というのが負担になると思うのですけれども、単年度ごとなのか、例えば3年、5年とか10年という期間なのか聞かせてください。

それから、前の十四、五ページに戻りますが、江部乙地区の農村環境改善センター、ここが集約されて、ここに集まるという計画が進んでいますが、この機能の集約に当たり地域懇談会が重ねられていると伺っています。そこでの懇談会の内容がこの計画に盛り込まれていると思いますが、課題として取り残された部分がないのか、それがあれば今後どうするのかについて伺いたいと思います。

それから、今年度実施設計の委託ということで、それのもとになる基本設計があると思います。今回の集約に当たり集いの場というものが新設予定されていますが、これはどういうものなのか。例えばみんくるでは椅子とテーブルが提供されていて、そこを自由に使ってくださいということなのですけれども、今後の集約化に当たってのモデルともなる事業であることからすれば、この集いの場が単に場所の提供にとどまらず、あちこちのまちで行われているまちカフェとか子供食堂のように人が集まりやすい、そういう取り組みをしている市民グループとか、そういうボランティアの方、そういう方とも連携した活動というのも視野に置いているのかどうか。特に江部乙地区であれば、人の集まりやすいそういう取り組みと一緒に連携したほうが効果あるのではないかと思います。そのような取り組みについて想定しているのかどうか伺いたいと思います。

あわせてこの集約に当たり岩橋英遠の展示スペースをつくるというお話も伺っています。これについて、岩橋英遠は世界的には有名な方で、大いにアピールすべきだし、江部乙、それから滝川の市民にとっても誇りとすべきで、重要なのですけれども、ほかの市町村から集まる道の駅からすれば少し奥まっているところで、使い方というのをもっと有効にしたほうがいいのではないかと思います。その辺についても今回の設計の中でいろいろ検討されるのか、その辺についてお話があれば伺わせていただきたいと思います。

以上、お願いします。

○議長 長 答弁を求めます。産業振興部長。

○産業振興部長 それでは、私のほうからただいま寄谷議員からありましたプレミアムつき商品券事業費並びにたきかわ観光国際交流スクエアの開設事業についてお答えをさせていただきます。

まず、プレミアムつき商品券事業についてでございますけれども、今回のプレミアムつき商品券事業は10月の消費税率の引き上げに伴いまして低所得者や子育て世代の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起、下支えをするための目的に行われるものでございます。議員おっしゃるとおり、6カ月ということではございますけれども、この商品券事業につきましては消費意欲に基づきます商品券購入を前提としておりまして、その分につきましては確実に消費につながることから、ある程度の下支えになるものというふうに考えているところでございます。

次に、施策の効果ということでございますけれども、この商品券につきましては使用できる場所が市内に限定されること、また6カ月という使用期間が決められており、おつりが出ないこと、さらにはプレミアムつき商品券は現金と比べて購買を高める効果も期待できることから、地域経済の活性化に一定の効果があるというふうに考えているところでございます。

続きまして、たきかわ観光交流スクエアの開設の看板等含めての人を呼び込む交流する場の費用負担のことでございますけれども、議員がおっしゃるとおり開設場所につきましてはやはり来客者、市民が集える場所ということでわかりやすくしなければいけないということでございます。これらの看板につきましては、借り主である滝川市が負担するというところになっております。

次に、賃貸借契約のことについてでございますけれども、これについては単年度契約ということにしておりますので、来年度以降の更新につきましては取り決めはないところでございます。

以上でございます。

○議 長 市民生活部長。

○市民生活部長 改善センターの実施設計の関係のご質疑ですが、改善センターの改修に係る基本計画をつくるために去年の4月から5回にわたりまして地域住民の方、江部乙地域で活動する方などによる地域懇談会を開催しました。会議の中で特に多かった意見としましては、誰もが気軽に交流できる場所、集いの場というふうに言っていますけれども、集いの場を設置してほしいということ、それから建物の施設内が暗いということ、そういったものを解消してほしいということ、それからトイレがあるのですけれども、全て和式ですので、これをやっぱり洋式化してほしいというような意見が出されました。これらの要望につきましては、設計に大体反映できるのでないかなと、そういう前提で基本計画をつくりましたので、そういった反映は進んでいくものと考えております。比較的議論の当初の段階では懇談会の中でも江部乙の地域の方からもエレベーターを設置してほしいという意見は出ておりましたけれども、事情等をお話ししながらエレベーター設置の難しさですとか、なるべくお年寄りの利用は1階で集約できるのでないかとか、そういうことをお話ししながら、エレベーターということは実現できないのですけれども、それ以外はおおむね要望に沿ったものができるのでないかと考えております。

それから、実施設計を委託するに当たって単なる場所の提供にとどまらないものになるのかということですが、新たに設置する誰もが気軽に集い、交流できる集いの場としましては地域懇談会におきましても最も要望の大きかった機能です。使い方としましては、子供たちの放課後の学習ですとか、高齢者の居場所、日常的に集える場として活用していただくとともに、今既に江部乙地域で、江部乙の駅のほうでやっていますけれども、駅カフェですとか、改善センターでのおためし食堂というようなものが行われています。寄谷議員さんのおっしゃるとおり、さまざまな活動、さまざまな連携により活動していただけるような場にしていきたいと考えております。

最後に、岩橋英遠の展示スペースの関係ですが、改善センター入り口付近に展示スペースを設けるとともに、集いの場には図録や関連書籍を置くなどして、地域住民の方にとっては誇りである岩橋英遠を子供たちにも知ることができるように整備したいと考えとともに、江部乙駅にも英遠コーナーがありますので、そこの動線も工夫し、観光客の方にも英遠を学ぶ、知っていただく場として活用していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議 長 再質疑ございますか。寄谷議員。

○寄谷議員 たきかわ観光交流スクエアの件ですが、単年度ごとの更新ということで、そしたら毎年契約条件については全て見直しの対象になるという理解でよろしいのでしょうか。

○議 長 答弁を求めます。産業振興部長。

○産業振興部長 先ほどご答弁申し上げましたとおり、市の財政部分も含めて市の契約事項は単年度予算になっておりますので、基本的には単年度ということで、長期にするのであれば債務負担を起さなければいけないということから、単年度更新でございますけれども、基本的には一般的にはやはり自動更新ということがあります。例えば今消費税の増税分ということもありますけれども、今回は増税も含めた分での契約というふうになってございます。ただ、ほかの部分の中に要件がご

ざいまして、変わったことが、大きな変化があったらそのときに見直すということをやはり甲乙協議ということになりますので、基本的には単年度更新ということでのご理解をいただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議 長 ほかに質疑ございますか。

(なしの声あり)

○議 長 これにて質疑を終結いたします。

これより一括討論に入ります。討論ございますか。

(なしの声あり)

○議 長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第1号、議案第2号、議案第7号及び議案第8号の4件を一括採決いたします。

本案をいずれも可決することに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、議案第1号、議案第2号、議案第7号及び議案第8号の4件は、いずれも可決されました。

◎日程第5 選挙第1号 中空知衛生施設組合議会議員の選挙について

○議 長 日程第5、選挙第1号 中空知衛生施設組合議会議員の選挙についてを議題といたします。

去る5月31日に開催されました中空知衛生施設組合議会第1回臨時会において滝川市長が組合長に当選されたことから、同組合同規約第5条第3項の規定に基づき、補充議員1名の選挙を行いたいと思います。

お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定に基づき指名推選によりたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選によることに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法につきましては、議長において指名することといたしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、議長において指名することに決定いたしました。

中空知衛生施設組合議会議員に、堀重雄議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました堀重雄議員を中空知衛生施設組合議

会議員の当選人と定めることに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名いたしました堀重雄議員が中空知衛生施設組合議会議員に当選されました。当選されました堀重雄議員には、本席よりその旨を告知いたします。

◎日程第6 選挙第2号 石狩川流域下水道組合議会議員の選挙について

○議 長 日程第6、選挙第2号 石狩川流域下水道組合議会議員の選挙についてを議題といたします。

去る5月31日に開催されました石狩川流域下水道組合議会第1回臨時会におきまして滝川市長が組合長に当選されたことから、同組合同規約第5条第3項の規定に基づき、補充議員1名の選挙を行いたいと思います。

お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定に基づき指名推選によりたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選によることに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法につきましては、議長において指名することといたしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、議長において指名することに決定いたしました。

石狩川流域下水道組合議会議員に、渡邊龍之議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました渡邊龍之議員を石狩川流域下水道組合議会議員の当選人と定めることに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名いたしました渡邊龍之議員が石狩川流域下水道組合議会議員に当選されました。

当選されました渡邊龍之議員には、本席よりその旨を告知いたします。

◎日程第7 選挙第3号 空知教育センター組合議会議員の選挙について

○議 長 日程第7、選挙第3号 空知教育センター組合議会議員の選挙についてを議題といたします。

去る6月3日に開催されました空知教育センター組合議会第1回臨時会におきまして滝川市長が組合長に当選されたことから、同組合同規約第6条の2第3項の規定に基づき、補充議員1名の選挙

を行いたいと思います。

お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定に基づき指名推選によりたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選によることに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法につきましては、議長において指名することにいたしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、議長において指名することに決定いたしました。

空知教育センター組合議会議員に佐々木和代議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました佐々木和代議員を空知教育センター組合議会議員の当選人と定めることに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名いたしました佐々木和代議員が空知教育センター組合議会議員に当選されました。

当選されました佐々木和代議員には、本席よりその旨を告知いたします。

◎日程第8 議案第12号 議員の派遣について

○議 長 日程第8、議案第12号 議員の派遣についてを議題といたします。

お諮りいたします。本案につきましては、滝川市議会会議規則第13条第2項の規定に基づき議会運営委員会から提案されたものでありますので、この場合、説明、質疑、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、説明、質疑、討論を省略し、直ちに採決いたします。

本案を可決することに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、議案第12号は可決されました。

◎日程第9 報告第3号 監査報告について

報告第4号 例月現金出納検査報告について

○議 長 日程第9、報告第3号 監査報告について、報告第4号 例月現金出納検査報告につ

いての2件を一括議題といたします。

説明を求めます。宮崎監査委員。

○監査委員 報告第3号 監査報告についてご説明いたします。

地方自治法第199条第4項の規定に基づく定期監査及び同条第7項の規定に基づく財政援助団体等の監査を行いましたので、同条第9項の規定により、その結果を報告いたします。

最初の報告ですが、監査の対象は滝川市立病院、滝川市立高等看護学院を対象に実施いたしました。

監査の範囲は、平成29年度の執行事務であります。

監査の期間及び監査の方法につきましては、記載のとおりでありますので、お目通し願います。

監査の結果につきましては、おおむね適正に執行または管理されていると認められますが、一部に改善、検討が必要と思われる事項といたしまして、職員の福利厚生団体の経理事務において弔慰金などの立てかえ払い、部活動助成金の支給の遅延や受領印の漏れ、領収印の未添付などが見られ、これらについては関係規程等に基づき適切な事務処理をされるよう、所属に対する講評において指導いたしました。また、軽易な事項につきましては、監査の過程においてその都度直接担当職員に是正または適正な処理方を指導、助言しておりますので、その内容は省略いたします。

次の報告ですが、監査の対象は教育部の社会教育課オリンピック・パラリンピック連携推進室、図書館、陶芸センター、美術自然史館、こども科学館、郷土館を対象に実施いたしました。

監査の範囲は、平成29年度の執行事務であります。

監査の期間及び監査の方法につきましては、記載のとおりでありますので、お目通し願います。

監査の結果につきましては、おおむね適正に執行または管理されていると認められますが、軽易な事項については、監査の過程においてその都度直接担当職員に是正または適正な処理方を指導、助言しておりますので、内容は省略いたします。

次に、財政援助団体等の監査ですが、監査の対象は一般財団法人滝川市体育協会であり、監査の範囲は平成28年度から平成29年度までの事業、財政援助及び公の施設の指定管理に係る出納その他の事務であります。

監査の期間、監査の目的及び監査の方法につきましては、記載のとおりでありますので、お目通し願います。

監査の結果につきましては、おおむね適正に執行または管理されていると認められますが、軽易な事項については監査の過程において関係者に是正または適正な処理方法を指導いたしました。

なお、監査意見といたしまして、今回収入、支出に係る現金、預金、取り扱い事務及びこれらに関する事務が適正に行われているか、また平成28年度及び平成29年度の決算に係る貸借対照表、損益計算書、正味財産増減計算書の書類が公益法人会計基準及び団体の会計規程等に基づいて作成されているか、計数は正確か、財政状況に関する会計事実は適正に表示されているかどうかについて関係書類及び会計帳簿等を審査した結果、いずれも良好に処理されており、特に指摘すべき事項は見受けられませんでした。今後も引き続き適切な事務処理に努めていただきたい。

以上で報告第3号、監査報告を終わります。

続きまして、報告第4号 例月現金出納検査報告についてご説明いたします。

地方自治法第235条の2第1項の規定に基づき、平成31年1月から3月分までの例月現金出納検査を行いましたので、同条第3項の規定により、その結果を報告いたします。

検査の対象は、一般会計、各特別会計、下水道事業会計、病院事業会計、各基金、歳入歳出外会計の現金、預金、一時借入金等の出納保管状況を対象に実施いたしました。

検査期日及び検査の方法につきましては、記載のとおりでありますので、お目通し願います。

検査の結果につきましては、各会計、各基金及び歳入歳出外会計とも計数上の誤りは認められませんでした。軽易な事項については、検査の過程においてその都度直接担当職員に是正または適正な処理方を指導、助言しておりますので、内容は省略いたします。

以上で報告第4号、例月現金出納検査報告を終わります。

○議 長 説明が終わりました。

これより一括質疑に入ります。質疑ございますか。

(なしの声あり)

○議 長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

報告第3号及び第4号の2件は、いずれも報告済みといたします。

◎日程第10 意見書案第1号 2020年地方財政の充実・強化を求める要望意見書

意見書案第2号 児童虐待防止対策のさらなる強化を求める要望意見書

意見書案第3号 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書

○議 長 日程第10、意見書案第1号 2020年地方財政の充実・強化を求める要望意見書、意見書案第2号 児童虐待防止対策のさらなる強化を求める要望意見書、意見書案第3号 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書の3件を一括議題といたします。

提案者の説明を求めます。田村議会運営委員長。

○議会運営委員長 それでは、意見書案3件について説明を申し上げます。

なお、説明に当たっては、内容を省略し、件名と送付先のみ申し上げます。

意見書案第1号 2020年地方財政の充実・強化を求める要望意見書。送付先は、内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生規制改革担当）、内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当）であります。

意見書案第2号 児童虐待防止対策のさらなる強化を求める要望意見書。送付先は、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、厚生労働大臣、文部科学大臣、法務大臣、国家公安委員長であります。

意見書案第3号 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書。送付先は、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、経済再生担当大臣、農林水産大臣であります。

以上、滝川市議会会議規則第13条第2項の規定により提出するものであります。

以上で報告を終わります。

○議 長 お諮りいたします。

本件につきましては、滝川市議会会議規則第13条第2項の規定に基づき議会運営委員会から提案されたものでありますので、この場合、質疑、討論を省略し、直ちに一括採決いたしたいと思っております。これに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、質疑、討論を省略し、直ちに一括採決いたします。

本案をいずれも可決することに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、意見書案第1号、第2号及び第3号の3件は、いずれも可決されました。

◎日程第11 常任委員会及び議会運営委員会閉会中継続調査等の申出について

○議 長 日程第11、常任委員会及び議会運営委員会閉会中継続調査等の申出を議題といたします。

お手元に印刷配付のとおり、第2回定例会以降における閉会中継続調査等の申し出がございました。

お諮りいたします。各常任委員長及び議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査等とすることに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

よって、各常任委員長及び議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査等とすることに決定いたしました。

◎市長挨拶

○議 長 以上で予定されました日程は全て終了いたしました。市長からの発言の申し出がございませんので、これを許したいと思います。市長。

○市 長 それでは、お許しをいただきまして、令和元年第2回滝川市議会定例会閉会に当たりまして一言ご挨拶申し上げたいと思います。

改選後初の本議会でございました。5月27日より本日まで12日間、議員各位におかれましては提出させていただきました議案全てに精力的に審議賜り、ただいま全て可とご認定いただきましたことに心からお礼と感謝を申し上げます。今回の補正予算等を含めさまざまな課題が明らかになっているわけですが、その大きな課題に皆さんとともに立ち向かってまいりたいと思う次第でございます。二元代表制でございます私ども、そして議会の皆さん方が一丸となつて解決しなければいけない課題がたくさんあるわけでございますので、今後さまざまな立場でご意

見、ご指導賜りますことを心からお願いを申し上げ、本定例会終了におけるご挨拶とします。
本日は、まことにありがとうございました。

◎閉会宣告

○議 長 本定例会に提案されました議案の審議は全て終了いたしました。
これにて令和元年第2回滝川市議会定例会を閉会いたします。
ご苦労さまでした。

閉会 午後 0時00分

上記会議のてん末は誤りがないので、ここに署名する。

令和 年 月 日

滝川市議会議長

滝川市議会議員

滝川市議会議員